

第 8 回「全国糖尿病週間三郷市民のつどい」が開かれる

2016年11月3日、三郷市文化会館において、第8回目となる「全国糖尿病週間三郷市民のつどい」が開催されました。今回は例年より多い130名の参加でした。

第1部は、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士の「何でも相談コーナー」で、今年も順番待ちの好評で、77名の相談がありました。また、理学療法士、作業療法士による運動療法、認知症予防体操の実践コーナーでは40名の参加がありました。8年目を迎えた市民のつどいは、地域ではだいぶ定着してきており、三郷市民の年中行事の1つになっていると実感します。各相談コーナーの参加数の詳細について報告します。

医師相談・・・8名	運動療法実践・・・20名	認知症予防体操実践・・・20名
看護療養相談・・・6件	血糖測定・・・29件	足チェック・・・7件
薬剤師相談・・・5名	管理栄養士・・・10名	物忘れチェック・・・12件（要精査2件含む）



第2部は、記念講演と三郷市健康推進課から報告がありました。はじめに、主催者を代表して三郷市医師会青木会長のご挨拶、そして、実行委員会を代表して宮崎医師（みさと健和病院・クリニック）からは、今年で8回目になる「つどい」開催の意義や経過のお話があり、西尾先生（みさと中央総合病院）の司会ですすめられました。講演は獨協医大越谷病院腎臓内科教授の竹田徹朗先生より「糖尿病から腎臓を守るために～透析予防のコツ～」と題して、糖尿病治療のABCを守ることが透析予防のコツだと、とてもわかりやすくお話していただきました。ABCのAはHbA1cを7%以下にコントロール、Bは血圧130/80維持と家庭血圧測定、Cは中断しない、放置しない、検査は受けることが大切だということでした。最後に、糖尿病協会加入と「さかえ」購読のすすめが、宮崎医師からおこなわれました。市の健康推進課からは、データからわかる糖尿病、糖尿病重症化予防事業、特定保健指導などのとりくみについて報告がありました。

講演の後の質問では、市民の皆さんの健康増進、病気の早期発見、合併症予防について健康意識が高いことを感じました。「つどい」の最後は、恒例「脳を鍛えるコグニサイズ（認知症予防体操）」参加者全員の楽しい運動で締めくくりました。



このつどいは三郷市医師会、埼玉県糖尿病協会主催で、企画、準備運営は、市内3病院が中心になり、協力し合って当日の任務分担に当たりました。各院所からの参加者は合計33名でした。

（内訳は、三郷中央総合病院8名、三愛会総合病院3名、みさと健和団地診療所3名、みさと健和病院・クリニック19名）